

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* PMC (自動光電子午環棟) 見学室に筆記台を設置

国立天文台は2000年4月から構内を常時公開している。そして2007年4月からはその公開区域を2倍ほどに広げ、また2009年7月には構内に三鷹市の「三鷹市 星と森と絵本の家」が開設され、見学者がたくさん訪れる。そして見学者には、どちらから来られたか、年齢は何十歳代か、また感想などを尋ねるアンケート用紙が配られる。先日の天文情報センター会議でそのアンケートの集計のようなものが発表された際、アンケート用紙が配られるが記載する場所がないという苦情もあると聞き、私が所管するPMC(自動光電子午環棟)が常時公開コースの一番奥にあることもあり、その見学室に筆記台を設けましょうと提案した。写真1が筆者がさっそく用意した筆記台である。



写真1 PMCに設けた筆記台

筆記台には筆記用具として簡便な鉛筆も用意した。この鉛筆はゴルフ場でスコアを記入するのに使われるもので、スコアカードと一緒に持ち帰るので、たくさんたまったものを供出した。我家では始末に困っていたものが片付いて喜んでいる。筆者はまだ使えるものを捨てることに出来ない性分でこういったものが溜まってしまう。

常時公開を始めて、アンケート用紙を配りながら、その記載に不自由があったことに10年近く気がつかなかったことは不覚であったと思う。これでアンケートの回収が増えれば何よりである。

自動光電子午環はすでに観測を終え、10年に及ぼうとしており、今はすでに過去の観測装置として見学の対象である。自動光電子午環棟は天文情報センターアーカイブ室の展示室として活用が始まっており、その呼称も近いうちに「天文機器資料館」へと移行する事になっている。